

No. 9

建設防災 ボランティアニュース

発行人 沼尻 執
 編集人 城之内一成
 発行 東京都建設防災ボランティア協会
 事務局 (財)東京都駐車場公社内(Tel: 03-5381-3370)
 横田マリ子、金田宗明
 (財)東京都公園協会内(Tel: 042-548-9161)
 荒木 清

7月河川愛護月間行事に参加

今年も河川愛護月間行事の協力依頼が河川部からあり
下記行事について協力いたしました。

「川を歩こう」や「施設見学会」については、8河川11事
務所の受付や誘導補助等のお手伝いをし、当協会の参加
延べ人数は43名でした。河川ごとのレポートにつきまし
ては、2ページ以降に掲載いたしました。



石ころア
ートで
遊ぶ親
子を指
導す
る協
会員

また、愛護月間の一環として、都庁第二庁舎1階ロビーに
おいて「川のパネル展&夏休み!川の情報室」が開催され
ましたが、これにつきましても、

- *フォトコンテストの投票依頼
 - *川遊びコーナーの指導
 - *クイズラリーの実施
 - *アンケートの依頼
 - *質問コーナーの対応
 - *見学者数の把握
- 等のお手伝いをしました。

行事名	担当事務所	月日	人員
川を歩こう (隅田川)	一建・五建・治水	7月6日 (日)	6名
環七地下河川施設見学会	三建	7月23日 (水)	12名
川を歩こう (石神井川)	四建・六建	7月6日 (日)	4名
川を歩こう (多摩川)	西建	7月6日 (日)	3名
境川クリーン作戦	南東建	7月27日 (日)	2名
川を歩こう (山田川)	南西建	7月12日 (土)	2名
野川のちびっ子先生集合	北南建	7月3日 (木)	4名
落合川わくわく川掃除	北北建	7月21日 (月)	10名
川のパネル展受付	河川部	7月22日 (火)	4名
		7月23日 (水)	4名
		7月24日 (木)	4名
		7月25日 (金)	4名
		7月28日 (月)	4名
		7月29日 (火)	4名
		7月30日 (水)	4名

「道の日」行事に参加して

(道路行事担当役員一雑賀 徹)



「道の日」展
示会場

協会は昨年に続き今年も「道の日」行事に参加しまし
た。

17回目を迎えた今年の「道の日」行事は8月6、7、
8日の3日間、都民ホールや新宿駅西口広場などで行わ
れました。

行事内容は、道路功労者・道路標語入選者の表彰式、パ
ネル展示、絵・イラスト展示、体験ツアーで、会員は表
彰式とパネル展示に参加しました。

7日に都民ホールで行われた表彰式では、受賞された
方々をパネル展示会場である新宿駅西口広場まで案内す
る役を8人の会員が担当しました。

パネル展示は、昨年同様3日間行われました。11人の
会員が行き交う人々の会場への誘導、クイズのアシスト、
パネルの説明などを職員とともに行いました。

この他に表彰式には一般参加として多くの会員が出席
し、受賞者にあたたかい拍手を送っていました。参加さ
れた皆様、暑いなかご苦労様でした。

最後に感想を一言

パネル展示会場は、大変人通りの多いところですが、
通行人の数の割には会場内へ立ち入る人が少ないのです。
今後もパネル展示を中心にした催し物を行うのであれば、
目立つ、解りやすいものへの工夫が必要だと思います。

当協会のロゴマークの意味がわかりますか？



anti (反対)
disaster (災害)
volunteer (有志)

すなわち、「防災ボランティア」という意味で、ヘル
メット等についています。デザインは田中稔氏です。

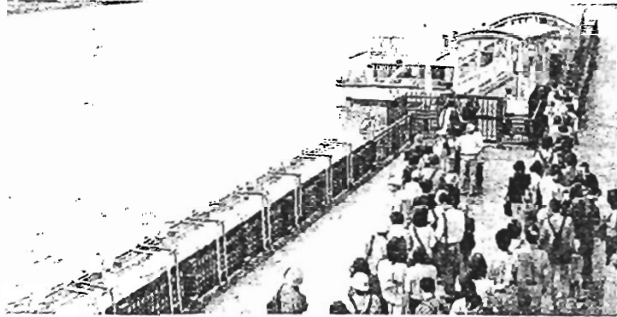
「川を歩こう（隅田川コース）」

（一建・五建・江東治水合同班 吉田 稔）

今年も河川愛護月間の一つとして「川を歩こう」（隅田川コース）が7月6日（日）江東治水・一建・五建の主催で行われました。当ボランティア協会からは一建・五建班のメンバー6名が参加しました。

当日は、曇り、微風で川の散策には最高のお天気でした。参加者は、老若男女・リピーター、以前隅田川の川辺に住んでいた方など様々な人々84名でした。

両国から乗船する見学者達



コースは、両国より水上バスに乗り隅田川の川辺を見ながらレインボーブリッジまで下り、晴海運河を通過して越中島公園まで行き、後は徒歩で相生橋を渡り、大川端を通りながら中央大橋を右手に見て佃島一丁目を通り、佃大橋を渡り、聖路加病院までの行程で、時間は午前9時40分から12時15分迄約3時間半掛かりました。その間、越中島公園地区、大川端地区、明石地区のスーパー堤防、中央大橋・佃大橋などの説明をしながら無事終了することが出来ました。

終了後のアンケートは82名中72名の方に記入していただきました。このアンケートの内容の一部を紹介します。

今回参加の感想では「よかった」が62名で87%、「よくなかった」は0%です。隅田川コースを希望した理由では「水上バスに乗れる」が45名63%、「隅田川に興味があった」が36名51%でおもな理由となっています。川沿いの遊歩道の整備・スーパー堤防事業については共に「今後さらに整備すべき」が54名ありました。スーパー堤防・テラスの利用についての自由意見では、「水辺の喫茶店」が6名いました。是非、土・日・祭日だけでよいから堤防・テラスにテーブル・椅子を置いてビール・コーヒー・ジュースを販売し飲めるようにしてほしいと思います。

「川を歩こう」は都民と直接肌で触れて河川の説明が出来るので河川PRには大変有効だと思われます。また、我々OBを有効に活用できる場だと思われます。今後とも続けられることを希望します。

会 員 の 変 動

退会	城戸昌彦氏	(三建)	9月10日
入会	大久保文夫氏	(三建)	9月1日
〒164-0013			
中野区弥生町1-39-2			
TEL 03-3378-8562			

環七地下調節池施設見学会

—平成15年7月23日・第三建設事務所—

（報告者：小森和雄）

7月の河川愛護月間にちなむ行事として、三建では、昨年に続き「環七地下調節池施設見学会」が開催され、当ボランティア協会から、12名（三建班：4名・他班8名）が応援しました。



この催物は、主に地域住民の方々に、NHK「ひるどき日本列島—東京の地下—」でも取り上げられた、洪水対策としての環七地下調節池（地下40-50mに設置された直径12.5mの巨大トンネル）内を歩いて見て頂き、河川事業へのより一層の理解を深めてもらおうという趣旨から実施されているものです。

換気棟のある梅里周辺、立坑建設中の善福寺川（和田堀橋）周辺の、町会を通じて公募した住民の方々、210名（梅里班98名・善福寺班112名）が参加されました。

我々は①受付（参加証・ヘルメット・軍手・クイズ用紙の配付）②トンネル内イベント（壁へのサイン・クイズ・暗闇体験・笹舟流し）③参加証回収④地上イベント（スーパーボール・ヨウヨウ釣り・飲物配付）の補助業務を担当しました。参加者は、子供と老人が主でした。連続二年参加の人、都の他の多くのイベント（下水道事業等）へ参加している人からは、多くの質問を受け、対応に窮しました。大人にはトンネル内の溝での笹舟流しは好評でした。

トンネル内は、一年中18℃。昨年は、地上の暑さとトンネル内との落差が大きかったのですが、今年は、雨模様の日の方が寒いという、夏らしくない一日でした。

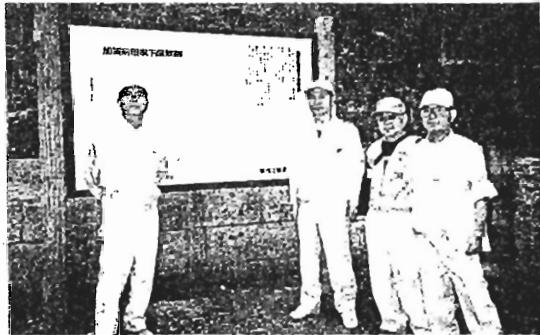
●町会の掲示板を見て、地域外からも申込があった。来るものは拒まず、だそうです。当日参加者もいました。

川を歩こう「石神井川コース」に参加して

(六建・四建合同班 栗田則男)

7月6日に川の日イベントとして六建・四建の共催による川を歩こう石神井川コースが実施された。当日は朝から小雨が降ったり止んだり、連絡網からの連絡待ちの状態であったが、連絡がなかったため、多分決行であろうということで家を出た。

9時集合でよかったのだが、小雨にもかかわらずわが防災ボランティア協会員は8時過ぎには、現役が浮き上がるほどの制服制帽(写真参照)で、集合場所である板橋区役所前に待機していた。



勇ましい姿の協会の面々

当日は、生憎小雨で、参加者が当初の予定より大きく減ることが予想されていたが、応募参加者20名を得ることが出来た。これに六建・四建・河川部・防災ボランティア計20名が加わり、総勢40名となった。前回は四建が主体であったが、今回は、六建が主体となって実施された。防災ボランティア協会のうち、六建からは栗田・熊谷が、四建からは加山・加藤の面々が参加した。3班集体で、それぞれ自分たちが現役時代に河川工事で苦労した話などを大げさに、またアンチョコで憶えたいわれなども地元の人達よりも、さも知っていたかのごとく説明していた。おじさん、おばさんたちからは相槌をうたれたりして妙に感心されていた。

参加住民の中には、自称植物学者もいて、このイチヨウの葉はズボンに似ているからオスの木だ。このイチヨウの葉はスカートに似ているからメスだとか。しかし後から実の付けるのがメスで付けないのがオスだとか。わかったようなわからないような説明をしていた。

参加者一同熱心に職員及び防災ボランティアからの説明を聞きながら、音無親水公園までの約3.7kmの散策を全員最後まで踏破した。今回石神井川を通して参加者(都民)とふれあうことができ、また来年も参加したいと参加者個々がボランティア会員などの手を取り、握手して別れていき、川の日にふさわしい行事となった。

「(多摩川コース)川を歩こう」

(西建班 小山弘光)

7月6日(日)河川愛護月間行事として西多摩建設事務所主催『川を歩こう多摩川コース』がおこなわれた。

歩行の行程は、昨年と同じだが、出発と到着点を逆にし、

上流から下流にむかっただけのコースになった。奥多摩ビジターセンターに集合し、もえぎの湯橋(吊り橋)―数馬峽遊歩道―白丸ダム魚道―鳩ノ巣小橋―多摩川水神社―鳩ノ巣駅(解散)の全長約5Kmである。

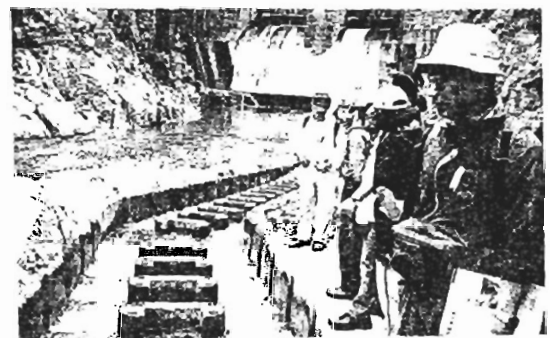
参加申し込みは50名あったが、朝方までの雨が影響したのか当日の出席者は33名であった。歩行の安全、説明などガイドを容易にするため、全員が1班(アユ班、赤色リボン)、2班(イワナ、紫色リボン)等5つの班に分かれての行動が計画された。

主催者側のメンバーは、西建職員15名、河川部2名、奥多摩観光協会のガイド10名、当協会3名が参加した。

今回の行事に当たっては、準備が周到に行われ、主催者の役割分担など綿密に計画されていた。防災ボランティアの役割は、受付、監視、案内、救護支援などを分担しました。山口工事二課長の挨拶、コース及び注意事項説明の後、9時35分ビジターセンターを出発した。

10分もするともえぎの湯吊り橋に到着、眼下の清流を眺めながら、ガイドさんから多摩川の説明を聞く。その後白丸ダム魚道まで1時間40分湖面と歩道の両側に茂る草木をながめつつ、キンシバイ、イロハカエデ等興味深い植物をガイドさんから教えて貰い、野いちごを試食したり、会話をしながら皆ゆっくりと歩く。

白丸ダム堰上の管理通路を通りさらに急な階段を上がりダム魚道管理所に到着。この魚道はダムにより水面の高低差が27mもできたため、ダムの上下流を魚が自由に行き来出来るよう、延長331m、幅2m、勾配10%の階段式及び潜孔式魚道を造ったもので、その内、125mがトンネルになっている。魚道が長いので、休憩プールが三箇所設けてある。魚道で魚が見えるかと期待したが、流れの中の魚影は発見できなかった。しかし、トンネル内の休憩用プールで、中ぐらいの魚一匹を発見、感嘆の声が聞かれた。階段式魚道を近くで見て、これなら魚も遡上できると感覚で納得した。



白丸ダム魚道で魚影を追う

それから、遊歩道を通り、鳩ノ巣小橋を渡りながら溪谷の景勝を眺め、多摩川の歴史を語る玉川水神社を拝し、全員無事に鳩ノ巣駅に到着した。皆とても元気な様子であった。一般参加者に記念品等が渡され、アンケートの回収、小泉河川維持係長の挨拶で午後1時頃解散した。

蛇足ではあるが、我が防災ボランティアの同胞は、解散のあとJR鳩ノ巣駅から、奥多摩駅に向かい、もえぎの湯で心地よい疲れを体験した。有意義な一日であった。

境川クリーン作戦に参加して

(南東建班 武内利夫)



ゴミ拾いする参加者達

今年の夏は太平洋高気圧が弱く梅雨明けが遅れておりました。そんな折りの7月27日(日)、「境川クリーン作戦2003」が開催されました。この「境川クリーン作戦」は、東京都が推進する『河川月間』に合わせて川の清掃を行うものです。主催は、境川緑のルネッサンス(今年7月NPOの資格を取得)で、昨年に引き続き第2回目の開催となったものです。100名を越す地元の人たちに混じり、都から河川部と南東建職員9名、建設防災ボランティアから佐藤俊さんと私の2名が参加しました。今年の清掃区間は鶴間橋から都の管理区域最下流端の都県境までの約2km。作業は、この区間を下流側からA、B、C班の3つのエリアに分けて実施するものです。

9時30分に鶴間公園に集合し、作業についての指示や注意事項の説明の後、それぞれの担当区域に向かいました。私たち防災ボランティアの2名はB班作業エリアが受持ちです。事前打合せでの役割分担は、参加者の安全誘導とそのための巡回で、ゴミ拾いなどの作業はしないことになっていました。しかし、地元の参加者たちが胸まで水に浸かったり、泥んこになってゴミ拾いをしている姿をただ見ているだけというわけにもいかず、早速佐藤さんは川原に下りゴミ拾い、私は監視を兼ねながら、皆が拾ったゴミを管理用道路への引き上げや、軽トラックに積み込む役を分担しました。

今年の梅雨は雨が多いほうではありませんでしたが、梅雨は梅雨、普段よりは水量が多いようです。アユ釣り用のスーツを身にまとい、いかにも川には慣れていそうに振舞う人、洋服のまま川に入りずぶ濡れになってゴミを拾う姿などが人目を引きました。

一方、拾い上げたゴミも千差万別。一番多いのは空き缶とビニール類、大きいものでは自転車や建設資材の残骸、変わったところではキャッシュカードが数枚入った財布、運転免許証などがありました。

ゴミ拾いは2時間弱で終り、収穫物(?)を所定の場所に運び作業は終了です。すべての班の作業が終わったところで再び鶴間公園に集合、最後に東京都が用意した記念品を参加者に配り第1部のクリーン作戦は終了しました。

午後は第2部として、子供たちの参加による「川の生き物を調べよう」、大人も楽しめるいかだを浮かべての「川下り」などのイベントが、皆の手できれいになった川を舞台に繰り広げられ、楽しい川遊びの1日を満喫していました。

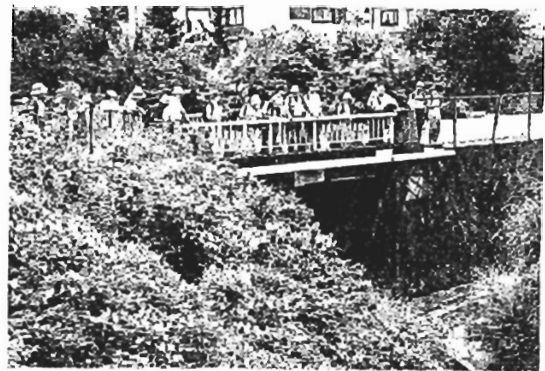
「山田川・夏のリバーウォッチング」

(南西建班 井田・堀内・滝下)

浅川市民フォーラム(浅川流域の住民団体)が主催する恒例の夏のリバーウォッチングが7月12日(土)に開催された。

連日の雨模様、当日も朝のうちは強い雨が降って一時は中止も心配されたが、その雨も早々にあがり集合する時間には天候も薄曇にまで回復、暑い一日となった。

一般の参加者が16名で意外と少なかったが、案内等に同行するスタッフは、南西建が新井工事課長をはじめとして6名、八王子市職員が2名、河川部が2名、それにボランティア協会会員3名と総勢29名となった。



木根橋から山田川を観察する

山田川のウォッチング計画は、京王高尾線の山田駅前午後1時に集合、月見橋から京王線付近までの約2.5kmを歩き、最後に南西建で意見交換会を行って4時半に終了することとなっている。

山田駅前の広場で主催者及び南西建から概要の行程、注意事項等の説明があって、いよいよ山田川のウォッチングに出発した。

山田川は浅川の支川、八王子市街の南側をながれ、多摩丘陵(めじろ台付近)から浅川に流入する全長4.8kmの距離のない川である。

すでに浅川から2.3km位までが改修済となっているが、川幅も狭く堀の深い三面張の構造となっている。

今回、ウォッチングする区間は、ほぼ中流部にあたる改修部及び未改修部を含んだ約2.5kmが対象である。

山田川の上流はいまだに自然を多く残しており、源流が湧水で流量もあって清流が保たれ、したがって流域には動植物が豊富に残っている川である。

現地視察が終わった後、最後に意見交換会を南西建で行った。例年のごとく熱心に質疑応答、意見等が出された。川が狭く、深いうえ三面張護岸に出来上がっているため、その印象が強かったのか、今後の改修にあたっては、自然保護を、親水護岸をと言う要望が多かった。和やかなうちに「山田川・夏のウォッチング」が終了した。

南西建の皆様をはじめ参加者の方々、暑い一日ご苦労様でした。

野川のちびっ子先生あつまれ！～小学生による「野川の通信簿」～に参加して

(北南建班 谷貝忠昭)

北多摩南部建設事務所は平成15年度河川愛護月間行事として野川流域連絡会が主催する“野川のちびっ子先生あつまれ！～小学生による「野川の通信簿」～”の行事を支援した。この行事は地元小学生を対象として、川とのふれあいを体験してもらい、河川に対する関心や愛護意識を高めるために計画したものである。

当日(7月3日)、午前9時梅雨空の天気を心配しながらスタッフ総勢約30名が小金井新橋右岸側で小金井市立南小学校4年生2クラス76名の生徒と先生方4名をお迎えして開催しました。

生徒達は4班に分かれて水生生物(アミで川の生き物探し、魚の説明)、水量・水質(バックテスト、川幅等を測り水量の計算)、鳥、そして植物の観察、観測をそれぞれ30分かけて行い、野川を採点して通信簿をつけました。



川遊びする子供たち

我々、ボランティアは各班に分かれて子供たちのなかに入りコミュニケーションを取りながら、時間の管理、誘導、観測及び観察担当班の補助及び事故がないように見守ることが任務として与えられました。久しぶりに小さな子供たちと触れ合っ、最初は戸惑いもありましたが時間が進むにつれて子供たちも慣れ、色々なことを質問してきました。動植物の知識が乏しい私は冷や汗の連続でしたが、幸い何とかしのいで恥を掻かずに済みました。触れ合いのなかで、特に印象が強かったことは子供たちが川に入って水生生物を捕獲したり、水量・水質を観測するときなどは目の色が変わるくらい生き生きした姿に変わり、大きな声を出して呼び合い魚などを追っかけて、本来子供たちが持っている資質を垣間見た気がしました。昔の子供たちと変わらないことが分かり安心しました。

午前中3時間子供たちと一緒に歩き回り、若干疲れ気味になりましたが、このような行事を通して自然環境の保全、再生について再認識させていただきましたので機会があったらまた参加したいと思います。関係者の皆様ご苦労様。

さて、子供たちの通信簿(感想)ですが、①水質検査(バックテスト)に興味をもった。定期的に野川を検査したい。②とても分かりやすく教えてくれたりして楽しかった。③お父さんにハシブトとハシボソ(からすの種類)の違いを教えた。④野川の通信簿をして、もっと野川を大切にしたいと思った等の意見が寄せられました。

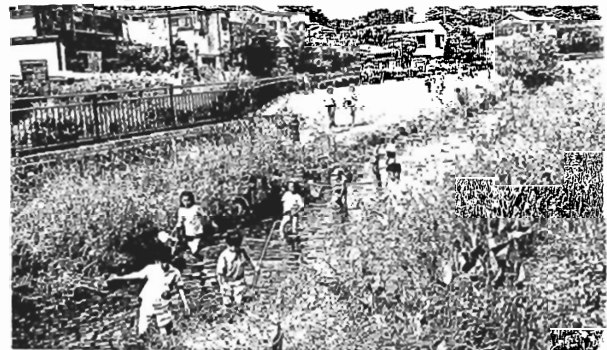
「落合川わくわく川清掃と川あそび」に参加して

(北北建班 小川祐司)

東久留米市主催の「落合川わくわく川清掃と川あそび」が、今年も7月21日海の日に開催された。東京都関係では、河川管理者である北北建の所長のほか14名、そして同所参集の我が防災ボランティア会員8名が参加した。

河川清掃は、落合川と黒目川で、合流点から上流へ夫々約1kmの区間であった。この河川の両岸は人工護岸で、河川内の両側に平らな土上げ敷状の部分がある。その幅は各、3m程度で雑草や藪が連続している。地元の人の話では、ここに鳥が営巣したり、狸や蛇なども生息しているので、除草幅を出来るだけ狭くするように河川管理者に要望しているとのことであった。そのためか河川内は除草した割には藪を残してあり、管理者の気配りが感じられた。我々の清掃は、黒目川の河川内の平らな部分でそこに投棄されたゴミを除去する作業であった。市街地の河川のためかゴミはコンビニ弁当の空などが主で、なかには大物のベットや自転車もあった。小学生のボランティアが参加する一方でこうした物を投げ込む輩のいる現代の世情を目の当たりにして複雑な思いにさせられた。

それはとも角として、今年小雨模様ではあったが比較的涼しく清掃作業にとってはし易い日であった。また、昨年の経験から予め河川内の除草した跡の清掃であったため、これまた好条件が重なり、昨年の労力の半分で終わった様な気がしたがここでも管理者の気配りを感じたのは私だけではないと思う。



初夏の落合川での川遊び

清掃終了後は、川あそび会場に移動し、主催者である東久留米市長や北北建の所長の祝辞があった。この時間帯には、幸いにも雨も上がり、地元住民の方々が用意したトン汁を戴きながら太鼓の演技を觀賞した。引き続き落合川で河川管理者が用意した仮堰の上流で子供達の川あそびが始まった。この河川では朝投網で取った魚が水槽に入れられていたが驚かされたのは、鮎がいたことであった。

それにしても、このボランティアに参加して考えたことは、始めにこの行事を企画立案した人達とこれだけの地域住民が参加する年中行事に育てた人達、そしてこれからも継続していこうとする人達の熱意に感嘆すると共にこれに参加できたことの意義があったという思い出で、快い疲労感のなか家路についたことであった。

第1回稲城大橋ファミリーウォークのお知らせ

多摩川三橋～大丸用水～ビール工場

&府中市郷土の森公園を巡る

主催：東京都道路公社

開催日時：平成15年10月13日（祝）10時～15時（雨天決行）

受付場所：JR南武線「矢野口」駅改札前

.....10名の部

京王相模原線「京王よみうりランド」駅改札前

.....12名の部

定員：一般のウォーキング愛好家 500人

（小学生以下は保護者同伴の場合は参加可能）

参加費等：無料

問合せ先：NPO法人歩走者学会 藤田まで

〒165-0027

東京都中野区野方3-29-5アムス野方705

電話・ファックス=03-5380-8697

Eメール: trendy_fujita@mvd.biglobe.ne.jp

申込方法：往復葉書に、参加者全員の氏名と年齢、代表者の住所、所属、電話番号を記載して、下記まで郵送下さい。

〒190-0023立川市柴崎町2-15-19

東京都道路公社 道路事業課

申込締切：2003年10月6日（月）必着

（ただし、定員になりしだい締め切ります。）

〔編集者註：東京都道路公社より、上記イベントの周知依頼がありましたので掲載しました。ボランティア協会員皆さんも、秋の行楽に家族連れで参加されては如何？〕

新宿消防署から感謝状

9月9日救急の日に新宿消防署から救急業務に貢献した3医療機関（都立大久保病院他）・12団体（帝都高速度交通営団新宿駅・同高田馬場駅・新宿区役所・当協会他）に感謝状が授与されました。

なお、本年度も救急技能認定のための講習会を予定しております。

編集後記

* 今年の7月、8月は、例年に比べて冷夏と言われ、凌ぎやすかったですが、9月に入ったとたん残暑が厳しく大変でした。

* 今月号は、7月の河川愛護月間、8月の〔道の日〕を特集として、編集しました。

原稿をお寄せいただいた会員の皆様に厚く御礼申し上げます

* 次号は、防災訓練を中心にお届けする予定です。

* 皆様からの原稿をお待ちしています。（城之内）

寄稿『河川ってなに？』 河川愛護月間に

野川を歩く 星光会（東京ガスOB会）笹川幸記

梅雨の合間を縫って、7月25日河川愛護月間にふさわしく“河川について経験し考える”をテーマに河川の専門家です。あります東京都OBの二宮先生、奥富先生、三沢先生ご指導のもと、「野川」の散策を行いました。

野川は、国分寺市東恋ヶ窪に源を發し、小金井市、三鷹市、調布市、狛江市などを貫流し世田谷区で多摩川に合流する全長23kmの1級河川。

多摩東支部のみならず、他支部からの参加者を含めた散策は、武蔵野公園から大沢橋までの区間ではありましたが、まだアジサイの花がその花びらを残し、山百合や桔梗の花の咲くなか、野川の地形、地質、周辺環境の変遷、水害対策などの説明に耳を傾けながらの散策は、川を泳ぐ蛇や色鮮やかな鯉そしてカルガモ親子の遊泳に驚かされながらの楽しい3時間でありました。



水車をバックに記念撮影

野川は、度重なる護岸工事で、蛇行していた流れも直線的になり、昔とは大分その様相を変えてはいるものの、螢の自生地や水車小屋が現存しているなど武蔵野の面影を今に残っていて、清流をたたえた『野の川』と言えるのではないのでしょうか。

この貴重な体験を活かす意味でも、身近な自然を足元から見直すこと、そしてその環境保全に対する陰の努力に対し一人一人が何をすべきかを考えさせられたことは偏にご指導を戴きました3人の先生方のおかげと存じ、改めて厚く御礼申し上げます。

〔編集者註：東京ガスOB会（星光会）の方々が野川を散策するので、ボランティア協会内で案内をして上げてほしいとの要請が河川部からあり、当協会員の中から、野川に詳しい二宮、奥富、三沢の三氏が担当されました。〕

上記の寄稿文は、その時のお礼と感想文を当協会にお寄せくださいました。

なお、記念写真に写っている水車は、峰岸家の「しんぐるま」と呼ばれ、昭和43年まで使用されていたものです。〕